



4月社長定例記者会見概要

4月24日午後3時から、テレビ佐々木社長、ラジオ三村社長、BS相子社長による定例記者会見が、TBS放送センターで行われました。概要は以下の通りです。

<平成から令和へ>

テレビ業界で振り返ると、平成が始まったときにTBSの名物番組『ザ・ベストテン』が終わった。この番組は、どこへでも歌手を追いかけ、音楽をライブで伝えるというもので、「音楽をニュース番組にした」とさえ言われた。それまでのテレビの全てを凝縮したような大番組だった。その大番組が終焉を迎えたタイミングが、平成の始まりだった。

テレビの楽しみ方が「お茶の間に、みんなで楽しむ」から、個別で楽しむ世界へ。自分の好きな時間に、好きな空間で、好きなものを楽しむように変化する兆しが、この平成の始まりにあったのかなと感じている。その後、インターネットが普及し、リアルタイム視聴からタイムシフト視聴や動画配信など、楽しみ方がたくさん出てきた30年間だったと思う。

一方で、インターネットや動画配信の中で一番見られるコンテンツは、テレビで作ったものであるという統計もあるように、我々がコンテンツ作りを重要視していくことは何ら変わらない。今だからこそ『ザ・ベストテン』のような、ある種の発明をした番組を、もう一度開発しなければならないのではないかな。

また、平成の時代に、日本は戦争をしなかった。これだけ長く戦争をしなかった国は世界の中でもあまり例はなく、誇らしいことであると思う。令和の時代もそうであってほしい。

最後に、TBSとしては、令和の時代に、大仕事「赤坂エンターテインメント・シティ構想」がある。隣にある国際新赤坂ビルを大きく開発し、コンテンツ・ライブ・イベント・教育等、様々な可能性を秘めた、世界に向けた「文化発信の基地」にする—そのために邁進する。再来年はTBS創立70周年。民放の中で最初に70周年の記念事業や番組を作っていくことになる。そこも含めて、飛躍の時代にしたい。

<編成関連>

2018年度通期の視聴率は、G帯は10.0%で、2011年度以来7年ぶりに2ケタに乗せることができた。苦しい時代が続いてきたが、わずかではあるが前進していることは、よかったと率直に思っている。新年度は、上期第1週で、3年5か月ぶりにG・P帯でトップを獲得。スタートダッシュとしては幸先の良いものとなった。4月のドラマは3作品すべて、スタートが順調だったと思う。『あさチャン!』など朝の番組をはじめ、全日帯の番組を強くして、多くの人に支持される情報番組を作っていくのが、変わらぬ我々の目標だ。

<営業関連>

2018 年度業績総括:2018 年度の当社のテレビ営業収入は、スポットは、テレビ全体の関東地区投下が苦しい逆風の中で、当社はギリギリ耐えた。よく頑張ったというところ。詳細については、5 月 14 日に決算説明会で発表する。

2019 年度の業績見通し:ネットタイムについて、「世界陸上ドーハ大会」や「WBSC プレミア 12」などの大きなイベントで、大きな売上を目指す。スポットについては、昨年同様不透明なところが多数あり、営業的には、市況は予断を許さない、見通しにくい状況だ。

<事業関連>

TBS は民放で唯一 3 つの劇場を所有・運営しているが、2018 年度の成績が好調だった。IHI ステージアROUND東京は 1 年 9 か月でおよそ 70 万人を動員し、マイナビ BLITZ 赤坂は、8 年連続で年間稼働率の記録を更新(95.2%)。TBS 赤坂 ACT シアターも年間稼働率が 95.3%だった。ライブエンターテインメントに関しては、実力をつけてきたという印象だ。イベントでは、東京都美術館で「クリムト展 ウィーンと日本 1900」が 23 日にスタート。グスタフ・クリムトの没後 100 年を記念する展覧会で、日本では過去最多となる 25 点以上の油彩画を紹介する。

話題の e スポーツについて、TBS の e スポーツ研究所がメディアサポーターとなった「NPB 主催 e スポーツシリーズ スプラトゥーン 2」が 5 月 18、19 日に行われる。TBS グループが大会の演出全般を手掛ける。ご期待いただきたい。

舞台では、TBS 赤坂 ACT シアターで 5 月 11 日から、恒例の「志の輔らくご」。21 日からは村上春樹の人気小説を、故・蜷川幸雄演出で舞台化した「海辺のカフカ」を公演する。

<ラジオ関連> TBS ラジオ 三村社長

元号が変わると、みんなが新しい気持ちになったり、新しいことを始めたくなるものだと思う。このところラジオ業界も radiko 活用を中心に新しい取り組みが活発になっているが、この改元のタイミングでラジオメディア、TBS ラジオを大いに PR し、広告主と一緒に新しいことを始めていきたい。

4 月スタートの新ワイド番組『ACTION』は、報道番組の『デイ・キャッチ！』から情報エンターテインメント番組へ大きな内容変更をしたが、リスナーファインダーや radiko ログデータを見てみると、女性の比率と 20~30 代が明確に増加。リスナー層の入れ替わりが見て取れる。新規リスナー獲得の芽が早くも出てきており、今後の展開が楽しみである。

Da-iCE・工藤大輝がパーソナリティを務める、毎週土曜 22 時放送の『TALK ABOUT』と連動した BS-TBS の番組『TALK ABOUT +』が、5 月 5 日(日)よりスタートする。『TALK ABOUT』は、ティーンの今を共有する番組で、『TALK ABOUT +』では、ラジオで盛り上がった特集を深掘りし、その後を独自取材していく構成となる。放送は月一回の予定。

伝説の深夜ラジオ番組『パック・イン・ミュージック』。その中でも人気だった、野沢那智さんと、先日お亡くなりになられた「チャコさん」こと、白石冬美さんによる、通称「金曜ナチチャコ・パック」の名作が、5 月 15 日(水)に CD2 枚組 3 巻セットで発売決定した。タイトルは、「金曜ナチチャコパック傑作集 1973 年版」。今年に入ってから、スタッフが白石さんと打ち合わせを行ったり、コメントを頂いたりしていたが、完成間近での今回の訃報は、発売を楽しみにしていたご本人や我々にとっても、非常に残念なこととなった。

<BS 関連> BS-TBS 相子社長

BS-TBS は平成 12 年 12 月に開局し、平成最後の 12 月に第二の開局といえる 4K 放送がスタートと、まさに平成とともに歩んできたといえる。令和の時代は更なるコンテンツの充実を目指し、より高度なサービスを視聴者に提供していきたい。元号関連の番組では、5 月 19 日に『報道 1930』で歴史家・磯田道史さんと松原キャスターで改元をテーマとし、現在の社会問題も絡めた対談企画を実施予定。4 月 29 日は『につぽん歴史鑑定』でも元号をテーマにした内容を放送予定。

2018 年度営業収入は、通期では前年度を割ったものの、下期としては前年度 100% を達成できた。なお 2019 年度 4 月は、前年 100% がみえてきている状態。

5 月のお薦め番組は、若者に特化した TBS ラジオと連動した企画『TALK ABOUT+』が 5 日スタート。『諸説あり！邪馬台国 SP』(10 日(金)よる 9 時～10 時 54 分)。『ザ・撃退！第 5 弾』(17 日(金)よる 9 時～10 時 54 分)。『北島三郎 芸道 58 年 歌魂の贈りもの』(5 月 18 日(土)よる 7 時～8 時 54 分)。『水戸黄門』(毎週日曜よる 6 時～6 時 54 分 19 日(日)スタートで全 10 話)。武田鉄矢“黄門様”が帰って来る！新レギュラーも加わりパワーアップ！九州をめぐる世直し旅へ。プロ野球は 7 試合放送予定。『世界リレー2019 横浜』(5 月 11 日(土)よる 7 時～8 時 50 分)。『バレーボール ネーションズリーグ』2018 年からスタートした世界のトップ 16 チームが集結する国際大会が 21 日に開幕。まさにバレーボール男女日本代表にとって東京五輪への試金石となる舞台。男女とも日本代表の全試合を放送予定。

以上